

[共同研究]

わが国の公的年金制度へのマネジメントからの接近

—公的年金制度のマネジメントをめぐる国際比較—

共同研究者

代表 今 福 愛 志 (日本大学経済学部教授)

小 棚 治 宣 (日本大学経済学部教授)

藤 野 雅 史 (日本大学経済学部准教授)

宮 里 尚 三 (日本大学経済学部専任講師)

小 野 正 昭 (みずほ年金研究所研究理事)

はしがき

わが国の公的年金制度は、所得再分配をめぐる世代間の不公平の是正、そのための税制のあり方などに関連づけて検討されてきた。しかし、2001年の財政投融资改革による公的年金基金の自主運用への移行にともない、独立法人の設立による公的年金制度の新たな運営問題が議論になっている。すなわち、①社会保障基金たる公的年金の運用の主体は誰なのか、②ガバナンスは誰がどのように行うべきか、③株式市場への投資にともなう機関投資家たる政府の議決権行使はどうすべきか、④いわゆる社会的責任投資(SRI)のあり方をめぐる公益と私益の利益相反をどのように調整すべきか、⑤公的年金制度のディスクロージャーはどのような観点からどのように実施すべきか。これらは、公的年金の管理運営のあり方に密接にかかわる問題であり、公的年金制度のマネジメントの問題であるといえる。

こうした公的年金制度をめぐるマネジメント問題は、これまで個別적으로는ともかく、明確な視点のもとに取り扱われてはこなかった。その要因は、わが国では年金をふくめて社会保障基金という概念が生成されてこなかった点にある。一方、米国、カナダ、イギリス等の諸国においては、この公的年金制度のマネジメント問題は、年金制度上、もう一つの課題となってきたように思われる。本プロジェクトの目的は、公的年金制度のマネジメントがわが国の年金制度の将来にとって重要な課題の一つであるという認識のもとに、国際比較という観点からわが国の公的年金制度のマネジメントのあり方について検討し、あるべきマネジメントの仕組みを提言することにある。

以下は、この研究目的にもとづく共同研究者の研究成果である。今福論文は、本研究の総論部分を担当したものであり、公的年金制度のマネジメント問題が年金制度の重要なアジェンダとなっている国際的状況とその課題をカナダ、イギリスなどを対象とした国際比較にもとづいて検討している。藤野論文は、わが国の年金積立金管理運用独立行政法人のマネジメント問題を主題として、目標管理によるマネジメントサイクルを機能させる要件にてらした分析と評価が行なわれている。こうした観点からの年金積立金管理運用独立行政法人の分析が少ないだけに、今後の議論が期待される。

小野論文は、本研究成果の他の論文においても検討されている「スウェーデンの公的年金の自動均衡機能」をあつかったものであり、賦課方式にもとづくバランスシートに自動均衡システムが組み込まれ、

バランスシートの不足が生じた時、自動的に過去期間に対応する給付を引下げる仕組みが詳細に検討されている。この成果は本研究の主題にふさわしいものといえるであろう。小榎論文は、ドイツの基礎年金の史的考察、とくに1950年代以降の展開の検討をとおして、わが国で現在問題となっている基礎年金をめぐる税方式の公的年金制度にとっての意義の変化、すなわち日本の社会保障の基本的な支柱である共同連帯のあり方を変革させる可能性について明らかにしている。宮里論文は、公的年金による所得代替率がどの程度であれば拠出の意思決定を行なうのかについて、モデルによるシミュレーション分析の成果であり、本研究テーマにとって必ずしも直接に関連するものではないとはいえ基礎研究にあたる重要な成果である。

(今福愛志稿)